

《イスラーム諸王朝の興亡》

次のA～Cの文章中のa～h に最も適する語句を記し、下線部に関する問に答えよ。
(25点)

- A 13世紀から①中央アジアの大部分を支配したチャガタイ=ハン国が、14世紀前半に東西に分裂したのち、西チャガタイ=ハン国の混乱に乗じて勢力を広げたティムールは、1370年、東西トルキスタンを統一してティムール朝を樹立した。彼は現在のアフガニスタン・イラン・イラクなどに当たる地域を支配下に収め、北インドの②デリーをも一時占領した。ティムールは、首都 a に領内の各地から職人・学者を集め、モスク・廟など多くの建築物を建てさせたが、明への遠征に向かう途上、シル河畔のオトラルで病死した。その子孫は以後約100年にわたって帝国を維持し、宮廷を中心に高い水準の文化を生み出したが、16世紀初頭、トルコ系の b 族によって滅亡に追い込まれた。

問1 下線部①について、「中央アジア」に関する説明として誤っているものを次の中から1つ選び、記号を記せ。(3点)

- ア 中央アジアのオアシスでは、古くからイラン系のソグド人が通商に活躍した。
- イ 突厥がモンゴル高原から中央アジアにかけての地域に築いた大帝国は、840年、ウイグルの攻撃を受けて崩壊した。
- ウ 10世紀末以降、カラ=ハン朝の下で中央アジアのイスラーム化が進展した。
- エ 中央アジアからイランにかけての広い地域を支配したホラズム朝（ホラズム=シャー朝）は、チンギス=ハンの攻撃を受けて崩壊した。

問2 下線部②について、当時「デリー」を支配しており、ティムールの攻撃によって衰退したデリー=スルタン朝の王朝は何か。(2点)

- B 1501年にイランに成立したサファヴィー朝は、シーア派の穏健な一派である c 派を国教とし、③イランの伝統的な君主の称号を採用した。サファヴィー朝の最盛期を現出したのは第5代君主のアッバース1世である。彼は、新軍の創設や行政改革を行って集権化に成功し、イスファハーンへの遷都を行ってメイダーン（広場）を中心にモスク・マドラサ（学院）・バザールなどを築き、ヨーロッパ諸国との貿易を振興した。また彼は、商業・軍事の要衝であったペルシア湾口の d 島を、1622年にポルトガル勢力から奪回した。

問3 下線部③について、この「イランの伝統的な君主の称号」は何か。カタカナで記せ。
(2点)

C インドにイスラーム勢力が最初に侵入したのは、ウマイヤ朝時代の8世紀初めのことである。その後、10世紀後半にアフガニスタンに成立した 朝、次いでこれを倒したゴール朝が西北インドにしばしば侵入したことで、イスラーム勢力のインド侵入は本格化し、13世紀以降には北インドに5つのイスラーム王朝が興亡した。アイバクによって樹立された に始まるこの5王朝は、デリー=スルタン朝と総称され、その支配の下でインドのイスラーム化が次第に進んだ。

その後、1526年にバーブルがデリー北方における の戦いでデリー=スルタン朝最後のロディー朝を破り、ムガル帝国を建てた。ムガル帝国期には④インドの伝統的な文化とイスラーム文化の融合が進み、インド=イスラーム文化が全盛期を迎えた。宮廷では、ムガル絵画と呼ばれる写実的な絵画が栄えた。また、第5代皇帝シャー=ジャハーンの名により建てられた は、インド=イスラーム建築の最高傑作として有名である。

問4 下線部④について、ナーナクがイスラーム教とインドの伝統的な宗教であるヒンドゥー教を融合させて創始した宗教は何か。(2点)